

## 5. 招待講演・シンポジウム

(学術集会・大会・公的な研修会のみ記載, 一般・社会講演は除く)

1. 森岡 周  
(講演) Effects of illusory kinesthesia by vibratory tendon stimulation on acute pain.  
PCS International Conference of Neuroscience. 2017. 4. Lisbon  
腱振動刺激による運動錯覚が術後急性痛に与える実践的效果と, 推定される鎮痛メカニズムを解説した.
2. 大住倫弘, 住谷昌彦  
(シンポジウム) 若手研究者 (U39) による最先端研究紹介 難治性疼痛のリハビリテーション研究  
JSPTF 第5回日本基礎理学療法学会学術集会/・JPTF 日本基礎理学療法学会 第23回学術大会合同学会. 2017. 5. 幕張  
難治性疼痛である複合性局所疼痛症候群と幻肢痛のリハビリテーション評価/介入研究について紹介した.
3. 森岡 周  
(講演) 慢性痛の神経メカニズムから予防と臨床介入を考える  
産業理学療法研究会. 幕張勤労プラザ. 2017. 5. 幕張  
慢性疼痛では中枢神経機能に変容していることを解説し, そのような視点から考えられる予防とリハビリを紹介した.
4. 信迫悟志  
(シンポジウム) 日本の DCD 研究最前線から一疫学から診断, 神経基盤の解明, そして療育へ—DCD の神経基盤からニューロリハビリテーションへ  
第1回日本 DCD 学会学術集会. 2017. 5. 神戸  
子どもの運動機能と視覚-運動時間的統合機能の発達変化および DCD の視覚-運動時間的統合機能および自動模倣機能についての研究を紹介した.

5. 信迫悟志  
（講演）子どもの運動の不器用さについて  
－発達性協調運動障害：DCDの病態－  
堺LD研究会．2017.6.堺  
小中学校の教職員に対して，子どもの運動の不器用さ（発達性協調運動障害）の病態について解説した。
6. 森岡 周  
（講演）半側空間無視に対するニューロリハビリテーション  
公益社団法人徳島県理学療法士会学術研修会．2017.6.徳島  
半側空間無視における病態メカニズムとリハビリテーションについて解説した。
7. 森岡 周  
（講演）子どもの発達がいを脳科学から理解する  
神戸市西区自立支援協議会児童ネットワーク．2017.6.神戸  
発達障がいにおける行動を解釈するために必要な脳科学的知見を紹介した。
8. 森岡 周  
（講演）運動制御と運動学習の神経メカニズムと臨床介入のヒント  
いわて運動療法研究会春期特別研修会．2017.6.盛岡  
リハビリテーションにとって重要である運動制御と運動学習の神経メカニズムを解説し，そのリハビリテーション手続きについて紹介した。
9. 森岡 周  
（講演）社会的コミュニケーションとリハビリテーション  
茨城県古河坂東保健医療圏リハビリテーション従事者研修会．2017.6.茨城  
リハビリテーションにおいて重要な社会的コミュニケーションについて神経科学の視点から解説した。
10. 森岡 周  
（講演）ニューロリハビリテーション－最新研究の成果と臨床応用－  
静岡県理学療法連盟特別講演会．2017.7.静岡  
国際的に検証されているニューロリハビリテーションを神経科学的知見を交えながら解説した。

11. 森岡 周  
(講演) 行為と認知のニューロサイエンス  
日本認知神経リハビリテーション学会研修会. 2017. 7. 盛岡  
行為と認知の基盤となる神経メカニズムについて解説した.
12. 森岡 周  
(講演) ニューロリハビリテーションとは何か? -身体性システム科学から考える-  
一般社団法人青森県理学療法士会研修会. 2017. 7. 青森  
身体性システム科学の重要性とその神経科学的知見を解説し, ニューロリハビリテーションの概要と実践を紹介した.
13. 森岡 周  
(講演) 脳を探ってわかったこと  
-今、理学療法士に伝えたい ニューロリハビリテーション-  
一般社団法人吹田市理学療法士会特別講演会. 2017. 8. 吹田  
理学療法士が脳科学を勉強することの意義を解説し, ニューロリハビリテーションの重要性について述べた.
14. 森岡 周  
(講演) 失行の病態分析とニューロリハビリテーション  
新学術科研費身体性システム C 班会議. 2017. 8. 仙台  
失行症の病態モデルを構築するための行動異常と損傷領域について解説した.
15. 信迫悟志  
(講演) 子どもの運動の不器用さについて -発達性協調運動障害(DCD)の病態と支援-  
富田林市教育委員会. 2017. 8. 富田林  
小中学校の教職員に対して, 子どもの運動の不器用さ(発達性協調運動障害)の病態と支援方法について解説した.
16. 松尾 篤  
(講演) 脳卒中患者の損傷脳の再組織化と機能回復のメカニズムについて  
日本理学療法士協会理学療法士講習会. 2017. 8. 奈良  
脳卒中患者の損傷脳の再組織化と機能回復のメカニズムについて講演した.

17. 大住倫弘

(シンポジウム) CRPS に対するリハビリテーション  
第 28 回 日本末梢神経学会学術集会. 2017.8. 名古屋  
CRPS における運動障害の特徴と理学療法のエビデンスについて話題提供した.

18. 松尾 篤

(講演) 脳卒中のニューロリハビリテーションー効果的な理学療法のためのエビデンスー  
第 36 回関東甲信越ブロック理学療法士学会. 2017. 9. 長野  
脳卒中のニューロリハビリテーションについて講演した.

19. 大住倫弘

(シンポジウム) 中枢機能障害性痛に対する先駆的ペインリハビリテーション  
第 22 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2017.9. 神戸  
認知・情動ネットワークが痛みを増悪させる認知神経科学的エビデンスを簡潔に概説し、リハビリテーションにとって重要である運動制御理論に基づいた運動評価について提案した上で、患者教育を併せた運動療法のエビデンスを紹介する.

20. 今井亮太

(シンポジウム) 骨・関節痛に対する理学療法  
第 22 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会. 2017.9. 神戸  
従来から慢性疼痛の発症には、痛み強度や痛みの心理的要因が関与していることが明らかにされている。しかしながら、近年心理的要因は患者や環境のバイアスが大きくリスクファクターとしては不十分であることも示されている。そこで、運動学的視点から心理的要因を客観的に捉えることを目的にタッピングタスクを用いて評価した。

21. 森岡 周

(講演) ニューロリハビリテーションとは何か？  
公益社団法人熊本県理学療法士協会 第 71 回学術研修会. 2017. 10. 熊本  
ニューロリハビリテーションについて概説し、理学療法士が脳科学の知見を学びながらリハビリテーションを実践することの重要性を説いた。

22. 信迫悟志

(講演) 「行為と認知のニューロサイエンス」「高次脳機能障害」  
日本認知神経リハビリテーション学会. 2017. 10. 岡山  
運動の認知の神経科学的知見と高次脳機能障害の病態について解説した。

23. 大住倫弘

(講演) 病期別にみた最新の疼痛メカニズム

第 25 回日本物理療学会学術大会. 2017. 10. 奈良

疼痛メカニズムを病期別に概説するとともに, それぞれの病期に合わせた物理療法アプローチをディスカッションした.

24. 森岡 周

(講演) 身体所有感と運動主体感の神経科学ーリハビリテーションにおける比較学習モデルの意味とは何かー

第 18 回認知神経リハビリテーション学会学術集会. 2017. 11. 札幌

認知神経リハビリテーションにとって重要な身体所有感と運動主体感についての神経学的知見を解説した.

25. 冷水 誠

(講演) 神経科学に基づく効果的な運動学習のための戦略

第 57 回近畿理学療学会学術大会. 2017. 11. 滋賀

運動学習メカニズムに関する神経科学分野における研究報告を紹介すると同時に, 効果的な学習方法に関する神経科学および心理学分野の研究を紹介.

26. 森岡 周

(講演) ニューロリハビリテーションの新たな枠組みー身体性システム科学の導入ー

日本神経理学療学会. 参加型フォーラム. 2017. 11. 東京

これまでのニューロリハビリテーションに加えて, 身体性システム科学の概念を導入することの重要性について解説した.

27. 森岡 周

(講演) 高次脳機能障害の脳内メカニズムと臨床手続き

九州理学療法士・作業療法士合同学会. 2017. 11. 宮崎

半側空間無視を中心に高次脳機能障害の病態メカニズムとリハビリテーションについて解説した.

28. 森岡 周

(講演) リハビリテーションに活かす脳科学  
第27回山口県理学療法士学会. 2017. 11. 山口  
リハビリテーションに活用すべき脳科学の知見について紹介して, ニューロリハビリテーションの概念について解説した.

29. 大住倫弘

(シンポジウム) 身体はどこまで拡張するか: 身体とプロジェクション「身体像の操作による痛みのリハビリテーション」  
日本認知科学会冬のシンポジウム. 2017. 12. 東京  
身体像を仮想空間で操作することで, 幻肢痛が緩和する自験例を紹介した後に, バックプロジェクションという視点がリハビリテーション開発に重要であることを述べた.

30. 森岡 周

(講演) 慢性痛の神経メカニズムとその介入  
国立水俣病総合研究センター 研修会. 2017. 12. 熊本  
慢性疼痛の病態メカニズムを脳科学の視点から解説し, それらを考慮したリハビリテーションの必要性を説いた.

31. 森岡 周

(講演) 身体性システムとリハビリテーションの接点  
新学術科学研究費 身体性システム若手の会. 2017. 12. 名古屋  
身体性システム科学で得られた知見がどのようにリハビリテーションに応用できるのかについて議論した.

32. 岡田洋平

(講演) 病期別理学療法  
公益社団法人日本理学療法士協会. 理学療法士講習会(基本編)「パーキンソン病の理学療法」. 2017. 12. 京都  
パーキンソン病の病期別理学療法について, 歩行練習, バランス練習を中心に解説した.

33. 森岡 周

(講演) 子どもの障がいを脳から理解する  
公益財団法人ひょうご子どもと家庭福祉財団第235回療育研修会. 2017. 12. 神戸  
発達障がいについて脳科学の視点から解説した.

34. 森岡 周

(講演) 半側空間無視と失行のリハビリテーション  
公益社団法人大阪府理学療法士会 平成 29 年度 第 6 回大阪市北ブロック  
研修会. 2017. 12. 大阪  
半側空間無視と失行症を中心に高次脳機能障害の病態メカニズムとリハビリテーションについて解説した.

35. 森岡 周

(講演) 半側空間無視と失行の病態と神経基盤  
新学術科研費身体性システム会議. 2018. 1. 大阪  
半側空間無視を中心に高次脳機能障害の病態メカニズムとリハビリテーションについて解説した.

36. 森岡 周

(講演) ニューロリハビリテーションー脳科学に基づいた新しいリハビリテーションの展開ー  
第 26 回埼玉県理学療法学会. 2018. 1. 埼玉  
脳科学の知見を活用するニューロリハビリテーションの概要と今後の展開について概説した.

37. 森岡 周

(講演) ニューロリハビリテーション  
第 57 回日本定位・機能神経外科学会. 2018. 1. 奈良  
脳科学の知見を活用するニューロリハビリテーションの概要と今後の展開について概説した.

38. 信迫悟志

(講演) 子どもの運動の不器用さ (DCD) に対する支援についてーリハビリテーションの観点からー  
堺 LD 研究会. 2018. 2. 堺  
小中学校の教職員に, 子どもの運動の不器用さ (発達性協調運動障害) に対する支援方法について解説した.

39. 森岡 周

(講演) 痛みに対する最新の知見とリハビリテーションアプローチ  
一般社団法人岩手県理学療法士会 学術研修会. 2018. 2. 岩手  
痛みにおける最新の神経科学的知見とニューロリハビリテーションについて解説した.

40. 森岡 周

(講演) 身体意識とリハビリテーションー私らしさの復権とはー  
一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団管理者研修会. 2018. 2. 大阪  
私らしさの基盤となる身体意識について神経科学的に解説し, 訪問リハビリでも身体意識を考慮する必要性を説いた.

41. 岡田洋平

(講演) 神経難病に対する理学療法ー特にパーキンソン病についてー  
第 23 回愛媛県理学療法士会学術集会. 2018. 3. 松山  
パーキンソン病の歩行障害, すくみ足に対するリハビリテーションに関する最新の知見と研究成果について中心に解説した.